

ジャンボタニシ(スクミリングガイ)被害軽減対策

○西日本中心に被害が発生しているジャンボタニシは東日本に被害が拡大しつつあります。
対策には耕種的防除、物理的防除、化学的防除があり、被害実態に応じて組み合わせて活用します。

耕種的防除

- 田植え時⇒**中成苗移植**
 - ・稚苗移植では被害が出やすいので注意(高密度育苗など)
- 田植え後⇒**浅水管理**
 - ・水深を4cm以下に維持
 - ・深水で被害が出やすいのでこまめな水管理を
 - ・丁寧な代かきにより均平化をはかる
- 圃場の改善⇒**田畑輪換**
 - ・乾燥に弱く、1年畑作にして生息場所を減らす



物理的防除

- 水田内への**侵入防止対策**
 - ・用水や発生状況に応じた侵入防止策(5mm以下の網設置)の実施
 - ・農機具の十分な洗浄
- 冬期の**耕うんによる破碎**
 - ・土壌が乾燥して固い時期に走行速度を遅くして十分に耕うんして破碎
- 卵塊除去、貝の捕殺**
 - ・被害程度が低い場合は殺卵・捕殺が有効
 - ・卵塊は掻き落とす、貝はトラップで集め捕殺



薬剤散布

- メタルデヒド粒剤、燐酸第二鉄粒剤、チオシクラム粒剤等の薬剤を散布し殺貝。
- ※移植時に被害が出る前に、全面散布、局所的など被害レベルに合わせて適切な散布を実施。
- ＜薬剤の例＞
 - スクミノン粒剤(メタルデヒド剤)
(https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/sukuminon_g.html)
貝に対する誘引性があり、摂食によって殺貝できる。
 - スクミンベイト3(燐酸第二鉄粒剤)
使用回数に制限がなく、摂食によって殺貝できる。
(<https://www.oat-agrio.co.jp/cgi/psearch/item/2014100110545703/index.html>)

化学的防除

石灰窒素による防除(田植え前防除)

石灰窒素工業会HP <http://www.cacn.jp/effect/effect.html#> JA全農 https://www.zennoh.or.jp/eigi/research/pdf/chirashi_05.pdf

荒起こし後、3~4cm湛水、3~4日間放置
活動を始め土から水中へ出てくる

石灰窒素を10a当たり20kg全面散布
3~4日間放置すると死滅



その後、代かきし、2~3日おいて田植え
※水路に流出しないよう注意、窒素施肥量の削減をはかる

